



Title	ガザル
Author(s)	ハーリー, アルターフ・フサイン; 松村, 耕光
Citation	印度民俗研究. 2021, 20, p. 41-46
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86921
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ガザル

アルターフ・フサイン・ハーリー

松村 耕光 訳

(1)

もっと良いものがある筈だ

何がこの目に止まるやら

最初の一杯でもう酔っている

朝にはどうなっているのやら

ああ、神よ、結果が吉と出ればよいのだが

これほど深い付き合いではなかったのだが…

恋の傷を味わえるようになるには一生かかる

今、心の傷をじっくり味わうことなどできようか
行き帰りの苦労の話はもう結構だ

使いの者よ、私の手紙への返事は何処にある

狂った心は世界と縁を切ってしまった

この愚か者、何処に住処を見つけ出したことやら

私が焦がれているのは特別な人

あなたのような人はたくさんいるが、あなたはあなたしかいないのだ
恋をしないで済むようにと祈っても叶えてはもらえない

言葉は無力だ、心が願っていなければ

ハーリーよ、今頃、歌と酒の遊びを求めてやって来たのか

朝に来るとは、昨夜は一体何処にいた

(2)

解ってくれる者は一人もいない

私には私の言葉で言いたいことがあるのだが
鳥籠には馴染めない

私の巣を誰か焼いてはくれまいか¹
しばらく偽求愛者を喜ばしてやるがいい
当てにはならぬ、あなたの人目を忍ぶ合図など
忠節を尽くすのはもう終わりのようだ
今度の試練で力が尽きた
あの人の名はいつ口にしても新鮮だから
いくらでもあの人の話を続けることができるのだ
苦悩に満ちた心を何かの役に立たせよう
もしも時間ができたなら
ハーリーに会えてとても嬉しかったよ
まだこのような人がこの世にいたのだね

(3)

会いたくてあれこれ手立てを講じてみたが
結局、すべてを天に任せることになってしまった
会っている夜でも魔法が効かなかったのに
会えない夜に苦しみを訴えたところで何になる
心よ、今こそ運が試されるとき
あの人は刀の切れ味を試し終わったぞ²
あの人は他人^{ひと}を批判する言葉を聞くのが好きだとか

¹ 自分を鳥に見立てている。自分の巣がなくなれば、あきらめがついて鳥籠に馴染めるだろうということ。

² あの人の刀（魅力）で切り殺されれば本望ということ。

恋敵を批判する言葉を書き送ってはみたのだが³
数日あの人の睫毛を想い続けただけなのに
心は矢の的になっていた⁴
今か、今かと待ち侘びて、命が口から飛び出しそうだ
あの人を化粧する^{もの}侍女よ、さっさとおしゃべりやめてくれ
私の心を奪い取り、あの人はゆっくりと休みを取った
まるで世界を征服した後であるかのように
ハーリーよ、西欧の詩風にするがよい
ムスハフィーやミールの真似はもう十分だ⁵

³ 恋敵を批判しても何の効果もなかったということ。「他人^{ひと}を批判する言葉」は「私」を批判する言葉と解することができる。

⁴ 想い人の睫毛は矢に譬えられる。

⁵ 「西欧の詩風」と訳した部分の原語は *maghribī*。ペルシアの神秘主義詩人ムハンマド・シーリーン・マグリビー (Muḥammad Shīrīn Maghribī, d. c. 1406) のことであるとしている註釈がある (Aṣghar Ḥusain *Khān Nazīr* Ludhiyānāvī, *Dīwān-e Ḥālī ma‘ Sharḥ*, Dehli, 1975) が、ハーリーの意図は不明確で——イーハーム (īhām ダブル・ミーニング) になっているのかもしれない——、一般には、伝統的な詩風をやめ、西欧の詩風を採用するよう説いた句とされている。ムスハフィー (Muṣḥafī d. 1824)、ミール (Mīr d. 1810) は有名な古典ガザル詩人。

解説

ウルドゥー近代詩の基礎を築いたパーニーパト出身の詩人アルターフ・フサイン・ハーリー (Alṭāf Ḥusain Ḥālī d. 1914) の定型抒情詩ガザル (ghazal) 3 篇の翻訳である。初句は次の通り。

(1) Hai justjū keh khūb sē hai khūbtar kahāñ

(2) Kō'ī maḥram nahīñ miltā jahāñ mēñ

(3) Milnē kī jō nah karnī thī tadbīr kar chukē

ハーリーは特定の主題について書かれる詩ナズム (nazm) で名を成した詩人であるが——六行連詩「イスラームの盛衰 (Madd-o-jazr-e Islām 1879)」が代表作である——、多くのガザルも作っており、ここに翻訳したガザル 3 篇は非常に有名である。技巧を弄さず、現実性を重視し、平易な表現を心掛けている点に彼のガザルの特徴があるとされている。